

報告

プラネット第2回研究大会

国際医療福祉大学大学院 東畠 弘子

1. はじめに

2016年7月3日(日)、姫路にて福祉用具プランナー研究ネットワーク(以下プラネット)による「第2回研究大会」が開催された。2015年の東京に続く大会は、快晴の中、北海道から鹿児島まで150人の会員が駆け付け、語り合う熱い一日となった。研究大会には、リハ工も後援している。以下、プラネットの概要とともに、大会の内容を報告する。

2. プラネットとは

プラネットとは、福祉用具・住環境整備等に係る研究研鑽、情報交換、交流を目的に2014年10月に設立された組織である。公益財団法人テクノエイド協会が認定する福祉用具プランナー(以下プランナー)、福祉用具プランナー管理指導者(以下管理指導者)を正会員、その他福祉用具に関心や係りのあるプランナー・管理指導者以外の人を準会員としている。事務局は公益財団法人テクノエイド協会に置かれている。事業は年に1回の研究大会と地区会が柱で、地区会は、プランナー有志が集まり自然発生的に増加している。研究大会は2015年に第1回大会を東京・国際医療福祉大学青山キャンパスにて開催し、今回場所を移しての開催であった。

3. 研究大会の内容

9時30分に開会、当日運営の準備に当たったプラネット関西世話人代表の奥山匡史さんの挨拶のあと、「福祉用具アワード表彰式」が行われた。アワードとはプラネット会員による投票で、これぞと思う製品を表彰するもの。福祉用具貸与・販売に従事する「プ

ロの眼」で見たコンテストといえるかもしれない。当日は表彰された製品の展示も行われた。

表彰式の後には4つの会場に分かれ、会員による発表は午前と午後で計13題が行われた。会員の中には、大学院に在籍する留学生もおり、「車いすダンススポーツの効果」「北京市の有料老人ホームにおける手動車いすの使用と意識」などの研究報告も見られた。福祉用具事業所とデイサービスの連携による「若年性認知症の方の失禁対策」といった現場からの興味深い事例も寄せられた。

また、管理指導者4人が受け持つ講座は、実践研修や持論展開の場面となった。パシフィックサプライ(株)、(株)リアム大塚によるランチョンセミナー、講演、展示が行われ、質問が相次いだ。休憩時には会場のあちこちで、ミニ地区会さながらの議論が行われ、15時30分からの閉会式では、運営スタッフ、参加者そろっての記念撮影など、「よくしゃべり、よく学ぶ」を合言葉とするプラネットらしい一日であった。

4. おわりに

第3回研究大会(2017年)は愛知県での開催が決まっている。リハ工カンファレンスを除けば、福祉用具の利用に係る発表ができる機会は、多くはない。

個人発表は毎年行われるので、来年はどれだけ数の発表があるのか、福祉用具アワードの表彰にはどのような製品が並ぶのか、楽しみに待ちたい。



写真1 参加者・スタッフ全員での閉会式

国際医療福祉大学大学院 福祉支援工学分野
〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3
青山一丁目タワー4階